

研究論文

ブリティッシュ・コロンビア大学バンクーバー・キャンパス教育系大学院 教育学 (Educational Studies) 専攻における学位プログラムの比較考察

平田 淳

A Comparative Study on the Graduate Programs of the Department of Educational Studies of the Faculty of Education at the Vancouver Campus of the University of British Columbia

Jun HIRATA

【要約】 UBC バンクーバー・キャンパス教育系大学院教育学 (EDST) 領域は、修士課程としては M.Ed. プログラムが 5 領域 6 分野、M.A. プログラムが 4 領域 4 分野から構成されている。他方で博士課程は、「Ed.D. 教育リーダーシップ&政策」と「Ph.D. 教育学」と、それぞれ 1 分野となっている。そのうち「M.Ed. カリキュラム&リーダーシップ」は、EDCP 専攻と EDAL 領域の協働プログラムとして設置されている。特に実践家向けプログラムに関しては、M.Ed. の修了要件はコースワークのみかコースワーク+修了ペーパーの作成のいずれかとなっており、修士論文執筆のオプションはない。Ed.D. は Ph.D. と同様、理解度テストや学位論文の執筆が修了要件となっている。

【キーワード】 UBC, バンクーバー・キャンパス, M.Ed., M.A., Ed.D., Ph.D.

はじめに

筆者は本誌今号掲載の拙稿 (平田, 2024a) において、ブリティッシュ・コロンビア大学 (University of British Columbia: UBC) バンクーバー・キャンパスで提供されている教育系大学院学位プログラムの概要を明らかにし、その諸特徴について検討したが、対象をその全体像と設定したため、詳細の検討は、紙幅の制約もあり、できなかった。他方で当該拙稿末尾において、次のようにその次の課題について提示している。

本プロジェクトの分析対象は M.Ed. 及び Ed.D. プログラムであるが、学位プログラム全体が広範にわたり、専攻が多様に分類されている場合、詳細に関しては特に筆者の専攻分野に近隣する専攻に絞って検討することとしてきた。UBC 研究もそれに倣い、この後に執筆する論考では特に専攻別プログラム中の教育学 (EDST) 領域における学位プログラムについて、詳細に見ていくこととする。(81 頁)

表 1 は、EDST で提供されている学位プログラムの一覧である。研究者養成プログラムである M.A. と Ph.D. はすべて修了要件として学位論文の執筆が課される「リサーチベース・プログラム」であり、教育実践家養成プログラムである M.Ed. と Ed.D. はすべて学位論文執筆を修了要件として課されない、基本

的にコースワークのみ（「修了プロジェクト（Graduating Project）」が課される場合はある）で修了できる「コースベース・プログラム」である（平田，2024a）。

表 1 EDST 専攻の各領域・分野における学位プログラム

領域	領域・分野名	M.Ed.	M.A.	Ed.D.	Ph.D.
ALE 領域	成人学習&教育	○	○		
ALGC 領域	成人学習&グローバルチェンジ	○			
EDAL 領域	教育行政学&リーダーシップ 教育的リーダーシップ&政策 教育学 カリキュラム&リーダーシップ*	○	○	○	○
HIED 領域	高等教育	○	○		
SCPE 領域	教育社会・文化・政治学	○	○		

* 「カリキュラム&リーダーシップ」分野の M.Ed.は、EDAL 領域と「カリキュラム&ペダゴジー（Curriculum & Pedagogy: EDCP）」専攻の協働プログラムとして設置されている。

出典：<https://educ.ubc.ca/grad/departmental-graduate-programs/>（2023年6月6日採取）を基に、筆者作成。

ところで、筆者は本プロジェクトにおいて、教育実践家向け学位プログラムであるか研究者向け学位プログラムであるか、修士課程か博士課程かの2つの観点から、次の3点の比較軸を設定している。なお、M.A.とPh.D.の比較は本プロジェクトの関心から外れるため、除外することとしている。

① M.Ed.と Ed.D.

同じ専門職向け学位プログラムとして、修士課程と博士課程ではどこがどう違うのか。

② M.Ed.と M.A.

同じ修士課程として、専門職向けプログラムと研究者向けプログラムではどこがどう違うのか。

③ Ed.D.と Ph.D.

同じ博士課程として、専門職向けプログラムと研究者向けプログラムではどこがどう違うのか。

そこで本稿では、上記各学位プログラムについて、その詳細を検討し、各学位プログラムの異同について比較考察していくこととする。

1. M.Ed.プログラム

表1にある通り、EDST 専攻の M.Ed.プログラムは、基本的には「成人学習&教育（Adult Learning and Education: ALE）」領域、「成人学習&グローバルチェンジ（Adult Learning & Global Change: ALGC）」領域、

「教育行政学&リーダーシップ (Educational Administration and Leadership: EDAL)」領域、「高等教育 (Higher Education: HIED)」領域、「教育社会・文化・政治学 (Society, Culture and Politics in Education: SCPE)」領域といった5領域の5分野について提供されている。これらに加えて、EDAL領域と「カリキュラム&ペダゴジー (Curriculum & Pedagogy: EDCP)」専攻の協働プログラムとして「カリキュラム&リーダーシップ (Curriculum & Leadership: CULE)」のM.Ed.プログラムも設置されているため、これを含めれば5領域6分野ということになる。更に、表1には含めていないが、教育学部内の「専門性開発・地域参加 (Professional Development and Community Engagement)」の部署を通して「サステナビリティ教育 (Education for Sustainability)」に関するM.Ed.プログラムが「M.Ed. in Educational Studies」として提供されている¹。また、「Ts”Kel」領域 (Ts”Kel Concentration) のM.Ed.が先住民教育に関して大学全体の学問分野横断的に統合された領域として提供されている²。但し、「Ts”Kel」領域については、学生は当該プログラムに入学申請するのではなく、まずその他の既存の大学院プログラムに入学申請し、入学が許可された場合に「Ts”Kel」領域の授業が選択した大学院プログラムに適用されるということになる³。

M.Ed.プログラムでは、修了要件30単位すべてをコースワークで修めるオプションと、27単位をコースワークで修め、残り3単位を修了ペーパー (Graduating Paper) に充てるオプションがあるが⁴、どちらが採用されるかは領域によって異なる。また、修得すべきコースワークも、領域によって異なる。

ALE 領域においては、コアコースとして「EDST 503 Historical and Philosophical Foundations of Adult Learning and Education」、 「EDST 514 Adult Education Program Planning Theory」、 「EDST 518 Theory and Research on Adult Learning」及び「EDUC 500」(領域共通) 台あるいはその他の調査方法論に関する授業4授業 (12単位) であり、残りの5授業15単位あるいは6授業18単位は選択授業となっている。選択授業はALE領域、EDSTのその他の領域、自学自習リーディングの授業 (EDST 580) や実習の授業 (EDST 561) からアドバイザー教員と協議の上選択することになるが、6単位を上限として300・400レベルの学部授業を選択することもできる。3単位分を通常のコースワークではなく修了ペーパーの授業 (EDST 590) で修得することを希望する学生は、教員アドバイザーと協議の上決定することになる。修了ペーパーの授業は、自分の実践領域に関連する課題について深く探究する機会を提供するものであり、例えば関連する先行研究や政策枠組、プログラムのシラバスやカリキュラム、その他自分の実践や職務の領域にとって直接的に有益な学生自身によって開発された教材等を徹底的にレビューしたうえで通常のレポート以上のペーパーを作成したりするなど、多様な形態のペーパーを作成するものである。枚数はトピックによって異なるが、大体40-50頁である⁵。

ALGC 領域は、通常と異なる授業配信や履修方法を採用している。当該領域は、南アフリカのウェスタン・ケイプ大学 (University of the Western Cape: UWC)、スウェーデンのリンシェーピング大学 (Linköping University: LiU)、オーストラリアのオーストラリア・カトリック大学 (Australian Catholic University: ACU) との協働で提供されるコースワークのみのプログラムであり、24か月を上限として修了しなければならない。4つの大学の協働ということもあり授業は基本的にオンラインで行われ、授業担当教員もこれら4つの大学から任用される。また、9単位分の選択授業については就業期間中であればいつでも、バンクーバー近郊居住者であればオン・キャンパス (対面式) で受講することができ (オンラインでの受講

¹ https://pdce.educ.ubc.ca/med_sustainability/ (2023年6月7日採取)。

² <https://edst.educ.ubc.ca/programs/tskel-program/> (2023年6月7日採取)。

³ <https://edst.educ.ubc.ca/programs/tskel-program/> (2023年4月30日採取)。ちなみに、「Ts”Kel」とは先住民言語 (Hal’qemeylem language) で「黄金の鷲 (golden eagle)」を意味する。

⁴ https://edst.educ.ubc.ca/programs/med-programs/#tab_Requirements-2 (2023年4月30日採取)。

⁵ https://edst.educ.ubc.ca/programs/adult-learning-and-education/#tab_Requirements-2 (2023年5月1日採取)。

も可), その他の地域居住者であれば多様な遠隔モードで受講することができる⁶。表2は1年目及び2年目それぞれの必修科目一覧である。必修科目は7科目21単位であり, 残り9単位は上述した選択授業の修得をもってこれに充てるということになる⁷。

表2 ALGC 必修科目タイトル及び担当大学一覧

Year One Required Courses	Year Two Required Courses
EDST 540 Locating Oneself in Global Learning I (taught by UBC)	EDST 544 Global/Local Learning (taught by UWC)
EDST 541 Adult Learning: Contexts and Perspectives (taught by LiU)	EDST 543 Understanding Research (teaching rotated among the four universities)
EDST 575 Work and Learning (taught by UBC)	EDST 540 Locating Oneself in Global Learning II (taught by UBC)
EDST 542, Fostering Learning in Practice (taught by LiU)	

出典：https://edst.educ.ubc.ca/programs/adult-learning-and-global-change/#tab_Requirements-2 (2023年6月11日採取)。

EDAL 領域においても修了要件単位数は30単位であるが, そのうち最低でも18単位はEDST専攻の授業でなければならないとされている。表3はコアコースと調査関連コースのタイトルと内容である。ほとんどの学生は501と553を最終的な授業としてプログラムの終盤に修得するが, 中にはこれらの代わりに「EDST 590 Graduating Paper」を選択する学生もいる。但し, 501と553を履修する方が2年で修了する可能性は高いということである⁸。その他は選択科目から履修・修得することになる。選択科目は, 表3の次に挙げるように20もの授業が列挙されており, 多くは教育行政学あるいはリーダーシップ学に特化した内容となっている。

表3 EDAL 領域のコアコースと調査関連コースのタイトルと内容

Core Course	Research / Capstone Course
<ul style="list-style-type: none"> EDST 532 Leadership in Educational Organizations <p>Explores various conceptions and understandings of leadership from classical writings, through traditional leadership studies, to more post-modern conceptions. Students consider the role of objectivity, research, ethics, and values as they refine their personal approach to educational leadership.</p>	<ul style="list-style-type: none"> EDST 501 Research Traditions in Educational Administration <p>Permits students to become informed consumers of research and to ask fundamental questions regarding claims to knowledge. Incorporates the development of strong analytic skills and the exercise at synthesizing skills needed both in the program and as educational leaders.</p>
<ul style="list-style-type: none"> EDST 581 Leadership, Administration and the 	<ul style="list-style-type: none"> EDST 553 Group Inquiry in Educational

⁶ <https://www.grad.ubc.ca/prospective-students/graduate-degree-programs/master-of-education-adult-learning-global-change> (2023年5月1日採取)。

⁷ https://edst.educ.ubc.ca/programs/adult-learning-and-global-change/#tab_Requirements-2 (2023年6月11日採取)。

⁸ https://edst.educ.ubc.ca/programs/educational-administration-leadership/#tab_Requirements-2 (2023年6月11日採取)。

Aims of Education	Administration (Capstone Project)
<p>This course focuses on the particular responsibilities of Canadian schools and especially education. Students are expected to articulate their own conceptions of education and apply these conceptions to various aspects of schooling including teaching, leadership and administration</p>	<p>Team projects devoted to a substantial issue in educational administration. Students develop important research, analytic and synthetic skills. Use of data-gathering techniques and the writing of a research report.</p>
<p>• EDST 582: The Study of Organization in the Educational Context</p> <p>Classical and emerging perspectives on organizations. Different ways in which schools may be conceived and be administered. Instructional strategies include seminars, discussions, hands-on activities and simulations. Application of knowledge to organizations within which students work.</p>	<p>• EDST 508 Review of Research Methods in Education</p> <p>This course is designed to assist students to write their graduating paper by introducing them to various methods of inquiry, offering peer support and consultation, completing any required ethics applications, and by working through various issues associated with writing a research paper.</p>

出典：https://edst.educ.ubc.ca/programs/educational-administration-leadership/#tab_Requirements-2 (2023年6月11日採取)。

Electives within EDAL

EDST 550: The Role of the School Principal

Concerned with understanding the practice of school leadership. The work of the principal is seen through various lenses: managerial, political and educational. Students are encouraged to integrate these views into their own conception of practice.

EDST 551: Personnel Administration in Education

An overview of staffing issues such as recruitment, placement, transfer, dismissal, appeal procedures and bargaining practices. Performance evaluation techniques. Motivation of personnel from various perspectives. Issues and cases in staff development.

EDST 508: Seminar on Educational Leadership in the BC Context

This course may only be taken in conjunction with full participation in the UBC/BCPVPA Short Course offered each summer. It provides a structured opportunity to reflect in more depth on the issues raised in the Short Course and gives students an opportunity to develop a project based on their practice.

NOTE: Students pay the regular UBC course fees as well as the fee for the Short Course.

EDST 517: Improvement of Instruction through Supervision

Introduction to the philosophy and practice of supervision. Examination of literature, videotapes, and classroom teaching. Discussion and practice of both formative and summative evaluation. The supervision cycle is studied and practiced. Students analyze teaching and are made aware of relevant political considerations.

EDST 531: Politics of Educational Governance

Overview of issues associated with power, influence, authority, and control in education. A review of conflict and interest groups in education based on recent actions. Micropolitics at the school level,

district and board level politics, and influences of politics at the provincial level. Case studies on the politics of innovation.

EDST 548: Teacher Unions and Education

This course examines teacher unionism and labour-management relations in education within a North American historical context, within the context of the broader union movement in Canada, and within the broader economic, social, and political context nationally and globally. Teacher unions are presented as complex organizations that represent a variety of intersecting interests related to teachers' roles as employees, professionals, and concerned citizens.

EDST 554: Administration and Educational Policy

Development of the knowledge and skills useful to the educational administrator in policy development, implementation, and analysis. Students consider ethical dimensions, formulate policies and update policy manuals, and learn processes for policy implementation. Guest lecturers and use of a journal.

EDST 555 : Educational Finance

Covers an understanding of how budgets are raised, allocated, and spent for K–12 education in BC. Addresses the principles of finance and applies them to a variety of problems such as budgeting, staffing and fundraising. The impacts of reforms such as decentralization are discussed. Guest speakers offer differing points of view on relevant issues.

EDST 556 : Leadership and Administration of the Educational Programs

Offers students an opportunity to explore issues related to the administration of a school-wide educational program in the context of issues of equity, excellence, and social justice. Students investigate research and popular opinion related to such topics as grouping and tracking, assessment, teaching and learning styles, multiculturalism, and ESL instruction.

EDST 557: Professional Ethics for School Leaders

In this course we will draw upon readings in ethics and upon our own professional experience to address three broad, interrelated questions. The first question, which is the focus of the course, concerns ethical decision-making: How can we develop our capacity for sound professional judgment on issues with ethical or moral dimensions? The second question concerns moral leadership: How can we contribute to the creation and flourishing of ethical school communities? The third question concerns moral pluralism: How should we understand and work with conflicting points of view on fundamental moral issues

EDST 552: School Law

Introduction to basic legal concepts and terminology. Students develop an awareness of the statute law and case law that pertains to education in BC. They focus on the information needed for legal action, but not on detailed legal rules. Topics include rights, special education, liability for accidents, crime, and copyright.

EDST 561: Practicum Simulation of School Leadership and Administration

Aimed at the improvement of administrators' decision-making and communication skills, this course presents problems that elementary and secondary principals face. Using a critical strategies format with a considerable number of case studies, students' insights and understandings of school organizations are increased.

EDST 565: Alternative Programs and Independent Schools

Students examine in depth the challenges and issues concerning mission, governance, leadership, curricular focus, funding, staffing, parental roles, and accountability. Debates, visiting speakers, presentations and critiques are used to compare and contrast both public alternatives and independent programs.

EDST 565: Organizational Learning in Education

This course aims to develop understanding and basic skills relating to the engagement of organizational members in collaborative incremental and transformational learning and change. Although the emphasis is on public schools, the theory and processes discussed are broadly applicable to a variety of other organizations.

EDST 565: Identity and Power in Work Organizations

This course will explore issues of identity and power as they apply across a variety of organizations, including K-12 schools, post-secondary education, and business. Identity is defined and examined using a variety of theoretical lenses. The central questions addressed in the course are: How do individuals come to identify, disidentify, or underidentify with organizations in which they work, and how is this process influenced by the way management treats employees, by organizational policies and practices, and by external policies that affect the organization? The course aims to develop understanding related to processes of engaging organizational learning in collaborative, incremental, and transformative learning and change.

EDST 565: Leadership is a Funny Business

It's funny -- the leader is responsible for ensuring that there is the plan intended to guide the group methodically toward its goals, and is subsequently responsible for managing things when it becomes clear that the plan is not what is happening. How can we, as leaders, be both thoroughly prepared and gracefully adaptable? How can we have clear expectations and standards while adjusting to contextual imperatives and embracing the needs and contributions of individual colleagues and children? Perhaps the contrary-filled business of leadership can be embraced by embracing the contraries themselves, strengthening the imagination, welcoming alternatives, looking again and askance, keeping a humble and hopeful stance.

EDST 579: School-Community Relations

The course addresses the social, political, and economic forces impacting school-community relations and the role played by educational leadership in this regard.

EDST 580: Directed Study

A student links up with a professor and investigates a problem of special interest that is not covered in depth in the course work. Some problems may be selected from the student's place of work. The student and professor maintain contact by meeting, telephone, faxes, and e-mail. Registration is by manual methods, not on line.

EDST 590: Graduating Paper

An opportunity to focus on an administrative problem in depth that is of particular interest to the student. Often involves assembling the relevant knowledge, collecting information from the student's school district, and submitting the results to the student's employer. The paper may take many forms, including

original research, critical literature review, a case analysis, or a proposal for educational policy.

EDST 598: Field Experience

Individually tailored, this is an opportunity to spend time shadowing an educator in a school, district office, or other workplace usually during three full-time weeks in May. Students complete a journal and assess their experience in light of what they have learned in their course work. Supervised jointly by a faculty member and an administrator. Most accessible to full-time students.⁹

HIED 領域においては、30 単位のうち 9 単位を高等教育関連の授業から修得し、調査方法に関する授業を 3 単位修得することが求められる。必修科目のタイトルと内容は、次のようになっている。

- **EDST 511 Organization and Administration of Higher Education**

In this course, we will consider historical and philosophical approaches to the notion of higher education as a social institution. The historical, social, political and cultural forces that shaped Canadian higher education are of particular interest. This course also entails a critical examination of current socio-political dynamics that operate to maintain or transform the higher education system.

- **EDST 521 Foundations of Higher Education**

In this course, we will consider historical and philosophical approaches to the notion of higher education as a social institution. The historical, social, political and cultural forces that shaped Canadian higher education are of particular interest. This course also entails a critical examination of current socio-political dynamics that operate to maintain or transform the higher education system.

- **EDST 536 Higher Education Systems in Canada**

This course examines the Canadian higher education system at both the national and provincial/territorial levels. We consider higher education policy, practice, and philosophy within and across Canada, and ask how recent trends in areas such as internationalization and Indigenization challenge us to rethink the scale, impacts, and social responsibilities of higher education systems.¹⁰

調査方法関連授業は、「EDUC 500 Research Methodology in Education」¹¹、「EDST 545 Indigenous Inquiry and Research」, 「EDST 546 Indigenous Methodology and Epistemology」, 「EDST 571 Educational Research: Relating Questions, Theory, and Methodology」¹²から 1 科目選択することとされている。その他に選択科目を 15 科目修得した上で、「EDST Graduating Paper」か別の 1 科目を選択し、以上で 30 単位を満たすことになる。

⁹ https://edst.educ.ubc.ca/programs/educational-administration-leadership/#tab_Electives-3 (2023 年 6 月 11 日採取)。なお、当該箇所は直接引用であるが、ウェブサイトからの引用であるため、頁の特定はできない。以下、頁の特定がない直接引用箇所は、同じ理由による。

¹⁰ EDST 511・521 のタイトルは <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDST>, EDST 536 のタイトルは <https://edst.educ.ubc.ca/courses/>, 内容は https://edst.educ.ubc.ca/programs/higher-education/#tab_Requirements-2 を、それぞれ参照した (2023 年 6 月 11 日採取)。

¹¹ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDUC> (2023 年 6 月 11 日採取)。

¹² <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-course&dept=EDST&course=571> (2023 年 6 月 11 日採取)。

SCPE 領域においては、コアコースを9単位、調査方法に関する授業を3単位、選択科目を15単位、残りの3単位を「EDST 590 Graduating Paper」か別の選択科目から1つ選択肢し、トータルで30単位を修得することが求められる。必修科目のタイトルと内容は、次の通りである。

EDST 577 – Social Context of Educational Policy (3 credits)

What is educational policy? Should policy analysts take social problems as given, or should they study the social construction of these problems? Which voices are dominant and which ones absent in the educational policy process? Who benefits from educational policy and who loses? EDST 577 examines the process of policy making as well as some persistent themes in educational policy (such as equalizing opportunity, providing more choice) through an analysis of policy issues and the social contexts from which they emerge.

EDST 509 – Constructing ‘Citizens’ – Canada and the Educational Past (3 credits)

This course explores how understandings of race, gender, class, sexuality, ability, and other markers of identity, change over time and affect conceptions of citizenship. This course gives particular attention to the role played by education – both formal and informal – in the historical construction of ‘nation’ and ‘citizen.’ EDST 509 offers a space for the critical examination of how and why we have inherited institutions and traditions that continue to serve some groups better than others. Through critical reflection on the past, this course encourages conversations about how we might enact a more equitable present and future.

EDST 597 – Educational Theories (3 credits)

Education is a central social institution, forming an organizing force in society together with other institutions such as law, health care, or family. Ideas about what education is, what purposes it should serve, and how we should go about it, are therefore closely entwined with ideas about what a society is and how it should function. This overview course is designed to introduce graduate students to influential historical and contemporary political theories and their connections to education (e.g., classical liberalism, Marxism and critical pedagogy, Indigenous critiques of Western political theory), focusing upon the concepts of equality, democracy, and justice.¹³

また、調査方法関連科目は、「EDUC 500 Research Methodology in Education」, 「EDST 571 Educational Research: Relating Questions, Theory, and Methodology」, 「EDST 545 Indigenous Inquiry and Research」, 「EDST 546 Indigenous Methodology and Epistemology」から1科目3単位を、選択科目は「EDST 502 Growing Up in History: Critical Approaches to Children and Youth」¹⁴, 「EDST 506 Educating the Body: Physicality and Identity in Historical Perspective」¹⁵, 「EDST 570 Topics in Sociology of Education」¹⁶, 「EDST 576 Feminist Theories, Pedagogies and Curricula」¹⁷, 「EDST 578 Multiculturalism and its Critical Alternatives: Diversity in Education

¹³ https://edst.educ.ubc.ca/programs/society-culture-politics-in-education/#tab_Requirements-2 (2023年6月11日採取)。

¹⁴ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDST> (2023年6月11日採取)。

¹⁵ <https://edst-educ.sites.olt.ubc.ca/files/2016/09/EDST-506-Course-Description-Short-Version-2017.pdf> (2023年6月11日採取)。

¹⁶ <https://edst.educ.ubc.ca/edst-570022-topics-in-sociology-of-education/> (2023年6月11日採取)。

¹⁷ <https://edst-educ.sites.olt.ubc.ca/files/2014/05/EDST-576-022-Feminist-Theories-Pedagogies-and-Curricula-2015->

and Society」, 「EDST 593 Ethics and Education」¹⁸から 15 単位を選択することになっている¹⁹。

EDAL 領域と EDCP 領域の協働によって提供されている「カリキュラム&リーダーシップ (CULE)」分野の M.Ed.プログラムは、学校におけるカリキュラム・リーダーシップと組織的リーダーシップのコンビネーションに関する研究への関心への対応として創設されたものである。そのため、当該領域の M.Ed.プログラムは M.Ed.教育行政学&リーダーシップと M.Ed.カリキュラム学を同じ割合で組み合わせたのとなっている。コアコースは「EDCP 562 Curriculum Issues and Theories」, 「EDCP 566 Curriculum Change, Planning, and Implementation」²⁰, 「EDST 581 Leadership, Administration, and the Aims of Education」, 「EDST 582 The Study of Educational Organizations」²¹の 4 科目であり、調査関連科目は領域共通の「EDUC 500 Research Methodology in Education」, 「EDST 501 Research Traditions in Educational Administration」²², 「EDCP 512 Education Action Research」²³の 3 つから 1 つを選択することになっている。その上で 3 単位が「修了ペーパー」として、「EDST 553 Group Inquiry into Educational Practices」, 「EDST 590 Graduating Paper」²⁴, 「EDCP 590 Graduating Paper」²⁵のいずれか 1 つ 3 単位を修得することが求められる。残り 12 単位は選択科目から修得することになっている²⁶。

2. M.A.プログラム

M.A.プログラムは学位論文ベース (Thesis-based, 上述の「リサーチベース・プログラム」と同義) のプログラムとなっており、ALE 領域、EDAL 領域、HIED 領域、SCPE 領域の 4 領域から構成される。修了するためには、24 単位分のコースワークに加えて、6 単位に相当する学位論文の執筆が要件となっている²⁷。コースワークの内訳は、6 単位分が全領域共通の必修授業であり、「EDST 571 Educational Research: Relating Questions, Theory and Methodology」と「EDST 572 Research, Writing, and Representation」の 2 科目である。3 単位分が調査方法に関する上級の授業、5 授業 15 単位分のコースワークが上記 4 つの領域のうち自分が所属する領域に特化した内容の授業 (3 授業が必修で 2 授業が選択) のように指定されている。次に挙げるのは、各領域の必修授業タイトルである。

Adult Learning and Education (ALE)

EDST 503 Foundations of Adult Learning and Education

[Winter-2-Syllabus.pdf](#) (2023 年 6 月 11 日採取)。

¹⁸ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDST> (2023 年 6 月 11 日採取)。

¹⁹ https://edst-educ.sites.olt.ubc.ca/files/2022/02/Worksheet_SCPE_1_Feb_2022.pdf (2023 年 6 月 11 日採取)。

²⁰ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDCP> (2023 年 6 月 12 日採取)。

²¹ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDST> (2023 年 6 月 12 日採取)。

²² <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDST> (2023 年 6 月 12 日採取)。

²³ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDCP> (2023 年 6 月 12 日採取)。

²⁴ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDST> (2023 年 6 月 12 日採取)。

²⁵ <https://courses.students.ubc.ca/cs/courseschedule?pname=subjarea&tname=subj-department&dept=EDCP> (2023 年 6 月 12 日採取)。

²⁶ https://edst.educ.ubc.ca/programs/curriculum-and-leadership/#tab_Requirements-2 (2023 年 6 月 12 日採取)。

²⁷ https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab_About-0 (2023 年 6 月 6 日採取)。

EDST 514 Adult Education Program Planning Theory

EDST 518 Theory and Research on Adult Learning

Educational Administration and Leadership (EDAL)

EDST 532 Leadership in Educational Organizations

EDST 581 Leadership, Administration, and the Aims of Education

EDST 582 The Study of Educational Organizations

Higher Education (HIED)

EDST 521 Foundations of Higher Education

EDST 511 Organization and Administration of Higher Education

EDST 536 Higher Education Systems in Canada

Society, Culture and Politics in Education (SCPE)

EDST 577 The Social Context of Educational Policy (Social Contexts of Educational Policy and Politics)

EDST 509 Constructing Citizens: Canada and the Educational Past

EDST 597 Educational Theories (Educational Theories: Equality, Democracy, and Justice)²⁸

つまり、コースワーク 24 単位中必修科目が 5 授業 15 単位（共通科目 2 つと領域科目 3 つ）で選択必修科目が 3 授業 9 単位（調査方法上級科目 1 つと領域科目 2 つ）ということになる。就学形態としてはフルタイムとパートタイムがあり、前者は通常 1 学期に 2 科目修得するため、秋学期・冬学期・サマーセッション前期・サマーセッション後期で 8 授業 24 単位すべて修得するということであるが、後者はそれ以上かかることが多い²⁹。修了までの期間は 2-3 年要することが多いが、パートタイムの場合はそれ以上かかるということである³⁰。

修士論文の執筆のプロセスとしては、まず学生は研究計画書（Research Proposal）を作成し、「調査指導委員会（Research Supervisory Committee）」の承認を受ける必要がある。調査指導委員会は通常指導教員と委員一名から構成される。委員会は学生に対し助言をし、研究計画書の作成を支援し、修士論文の草案を検討し、最終口述試問（defense, ディフェンス）の準備が整っていることを保証することとされる。EDST の修士論文はパブリック・ディフェンスを要請するものであり、評価 z には外部審査員（external examiner）1 名が含まれる。修士論文は、通常 80-100 頁である³¹。

3. Ed.D.プログラム

EDST 領域の Ed.D.プログラムは、「教育リーダーシップ&政策」分野で提供されており³²、例えば K-12 学校制度だけでなく、中等後教育機関や民間企業、保健機関、労働組合、コミュニティ・グループといったフォーマル及びインフォーマルなセッティングにおけるリーダーシップや政策上の責任を有する教育実践家のための上級編とされている。当該プログラムは教育的セッティングにおいて実践を理解し、批判し、改善することに関する学術的言説に従事することが受講者にとって重要であるという認識に基づいてデザインされており、6 つの必修演習（seminar）、2 つの選択授業、理解度テスト（comprehensive

²⁸ https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab_Requirements-2 (2023 年 6 月 12 日採取)。

²⁹ https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab_Requirements-2 (2023 年 6 月 6 日採取)。

³⁰ https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab_About-0 (2023 年 6 月 6 日採取)。

³¹ https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab_Requirements-2 (2023 年 6 月 12 日採取)。

³² <https://edst.educ.ubc.ca/programs/> (2023 年 5 月 1 日採取)。

examination) と学位論文によって構成されている。また、Ed.D.教育リーダーシップ&政策は1997年以來コーホート方式を採用しており、受講者はプログラムを通して10-12名のコーホートとして授業等に参加することになっている³³。

当該Ed.D.プログラムの修了要件は、必修科目6科目18単位、選択科目2科目6単位、理解度テスト(Comprehensive Exam, 授業等指導ではないため0単位)、学位論文口述試験(Thesis Defense, ディフェンス, 学位論文として6単位)の計30単位となっている。表4は、7月開始の当該プログラム・スケジュールである。表中で「EDST」に続き3桁の数字で表記されている6科目が必修科目である。授業は、1年目の夏学期に必修科目2つ、1(秋)学期と2(冬)学期に必修科目1つずつ、2年目の夏学期に必修科目1つと選択科目1つ、1学期は選択科目1つ、2学期に必修科目を1つ修得することが求められており、その後2年目3学期に理解度テストを受けることになっている。理解度テストに合格した後に、3年目夏学期に研究計画書(Research Proposal)の審査を受け、合格すれば1学期に調査を実施し、2学期に学位論文執筆、3学期に学位論文のディフェンスとなり、これに合格すれば修了ということになる。このスケジュールは3年でEd.D.プログラムを修了できるように組まれているが、他方でほとんどの学生はそれよりも長くかかるということである³⁴。

表4 Ed.D.教育リーダーシップ&政策のプログラム・スケジュール

YEAR 1	EDST 601	EDST 593	EDST 603	
	EDST 577			
	Jul – Aug	Sep – Dec	Jan – Apr	
YEAR 2	EDST 604	Elective	EDST 602	Comprehensive Exam
	Elective			
	Jul – Aug	Sept – Dec	Jan – Apr	Apr – Jun
YEAR 3	Research Proposal	Research	Write Thesis	Thesis Defense
	July – June			

出典：https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年5月15日採取)。

表5は、必修演習のタイトルと内容の一覧である。最初の「First Year Doctoral Seminar (EDST 601)」は、Ed.D.プログラムの導入部であり、受講者の実践を相互に分析していく内容となっている。同時に履修する「Ethics in Educational Leadership EDST 593A (971)」は、受講者自身の実践の倫理的課題について検討するものであり、道徳的に防御し得る対応について学ぶものとなっている。「The Social Context of Educational Policy (EDST 577)」は、社会状況との関連における教育政策の性質について、受講者の実践

³³ <https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/> (2023年5月15日採取)。

³⁴ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年5月15日採取)。

の観点から検討するものである。1年目最後の必修科目は「Researching Educational Practice and Policy (EDST 603)」であり、教育実践調査を実施することの意味やリサーチ・パラダイムや認識論的議論、及びその方法論的含意について、実際の Ed.D.リサーチ・プロジェクトを対象としながら考察するものである。2年目最初の必修科目は「Advanced Seminar in Researching Educational Practice and Policy (EDST 604)」であり、「Researching Educational Practice and Policy (EDST 603)」の上級編である。この授業は調査実施に必要な調査専門性を開発することを目的としており、具体的な調査手法について学ぶこととされている。また、EDST 604 と同時期に選択科目を1つ、次学期に選択科目をもう1つ修得することが求められる。そして最後の必修科目である「Doctoral Seminar (EDST 602)」は、これまでの必修演習を踏まえた上で、理解度テストや調査実施の準備作業として位置付けられている³⁵。

表5 必修演習授業タイトルと内容

学期	授業タイトル&内容
Summer (July – August) - First Year	<ul style="list-style-type: none"> ○ First Year Doctoral Seminar (EDST 601). This seminar begins the cohort’s exploration and critique of their own practice in the light of issues, problems and concepts which will be important throughout the program—including education, leadership, ethics, policy, and practice—and the relationships among them. ○ Ethics in Educational Leadership EDST 593A (971). This seminar focuses on understanding and addressing ethical problems drawn from the students’ own practice. Ethical theories and forms of ethical analysis are applied to these problems to develop morally defensible responses.
Term 1, Winter (September – December) - First Year	<ul style="list-style-type: none"> ○ The Social Context of Educational Policy (EDST 577). This seminar explores the nature of educational policy in relation to its social context. It includes policy issues drawn from the students’ own worlds of practice.
Term 2, Winter (January - April) - First Year	<ul style="list-style-type: none"> ○ Researching Educational Practice and Policy (EDST 603). This seminar focuses on what it means to conduct research in and on educational practice. Research paradigms, epistemological debates and their methodological implications are discussed. A variety of completed EdD research projects are analyzed.
Summer, (July–August) - Second Year	<ul style="list-style-type: none"> ○ Advanced Seminar in Researching Educational Practice and Policy (EDST 604). The purpose of this seminar is to help students develop the methodological expertise needed to carry out their research projects. Students will learn how to select and apply various research tools and techniques commonly used in the study of educational practice.
Term 2, Winter (January - April) – Second Year	<ul style="list-style-type: none"> ○ Doctoral Seminar (EDST 602). This final seminar focuses on reviewing and integrating concepts that are central to the program and relating these understandings to practice in preparation for the comprehensive examination and thesis research.

出典：https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年5月15日採取) の記述を基に、筆者作成。

³⁵ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年5月15日採取)。

コースワークの修得を2年目2学期までに終わると、4学期には理解度テストを受けることになる。理解度テストの目的は、次のように説明されている。

Ed.D.教育リーダーシップ&政策は教育実践に中心的な関心を寄せており、学生や教授陣は理論と実践や、両者間の複雑な相互関係に関する学術的対話に対し多様なバックグラウンドから幅広い知識を貢献するものと想定している。そして教育、リーダーシップ、倫理、調査、政策という5つのキー・トピックに特に注目し、これらキー・トピックは次の「5つの基本的課題」において体系づけられている。即ち、(1)教育とは何か？(2)教育実践とは何か？(3)教育実践の「改善」とはどのように判断されるのか？(4)教育実践をどのようにして研究し得るのか？(5)これまで研究されてきたものは我々自身の実践を批判し改善する能力にどのようなインパクトを及ぼしてきたのか？本プログラム期間中の様々な時点における特定のトピックを強調する授業もあれば、学位論文を含む本プログラム全体が実践と学術の統合された対話であることを意味している場合もある。理解度テストは学生が学位論文のための枠組を設定しそれを文書で公に提示することを始める機会として意図されている。³⁶

学生は、理解度テストを「EDST 602」の終了時（2年目の4月）と2年目の終了時（6月）の間に完了させることが期待されており、理解度テストはすべての必要なコースワークが完了していることを想定して実施されることになっている。

理解度テストの形態としては、文書形態及び口述形態の双方で行われる。まず文書形態としては、最大7,500語でフレームワークを設定することとされる。フレームワークは2部から構成され、1部は計画している研究を実施しようと思ったきっかけとなった関心について自らの実践から説明し、文書化する。即ち、なぜこの問題に関心があるのか？なぜそれが教育的関心と言えるのか？それをどう研究計画として発展させるのか？それはどのような貢献や含意を有するものなのか？当該問題のどのような点について研究する計画であり、どういったリサーチクエスチョンを設定するのか？自分のリサーチデザインはどのようにこの問題に向けられるのか？等である。2部においては、当該教育問題に関する理解を示し、調査に関連する先行研究に関するクリティカルな分析を行うものであり、次の2つのオプションのうち1つを選択することになっている。即ち、(1)当該問題に関する先行研究の現状をレビューし、自らの研究において関心を向ける特定の領域を示すこと、(2)当該問題あるいは自らの研究の根底にある概念的理論的枠組みを選択しその正当性を示すこと、のいずれかである。口述形態の理解度テストは、研究のアウトラインを説明し、審査委員会（Examination Committee）からの質問に答えるものであり、プレゼンテーションに約20分、全体としては約1時間が費やされる。質問に対する回答は学術性及び当該学生の専門的実践双方の規範により判定される³⁷。

理解度テストに合格したすべてのEd.D.受講者には学位論文のための研究計画書（プロポーザル）の作成が求められる。プロポーザルのフォーマットと内容は当該学生の調査指導委員会との協議の上設定される。プロポーザルは在学期間中の出来るだけ早い時期に作成されることが望ましいが、遅くとも2

³⁶ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2（2023年6月12日採取）。

³⁷ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2（2023年5月17日採取）。

年目が終わるまでに作成しなければならないとされる³⁸。

理解度テストとプロポーザルの審査に合格すると、学位論文のための調査及び論文の執筆という段階に入ることができる。Ed.D.学位論文は、学生が自身の実践における課題や一連の事情を集中的に研究した研究プロジェクトの報告書という位置づけである。調査は調査指導委員会の指導の下行われるが、委員会には関連する教育分野の優れた実践家を入れることもできる。学位論文の評価は学術的及び専門職的基準に基づいて行われる。学術的基準としては、例えば議論の一貫性と整合性 (integrity)、リサーチベースの適切性、分析の質、関連する概念的及び理論的研究の解釈といったものが含まれる。専門職的基準としては研究の教育的インパクトや研究対象に適用される知見のレベル、歴史的・地域的事情への繊細さ、結論として導出された勧告の実現可能性と不可欠なサポート、とされる³⁹。

コースワークとその他の修了要件は、学生が3年間でプログラムを修了することができるようスケジュールされている。しかし、ほとんどの学生は修了までに3年以上を要している。病気や個人的な事情の変更といった理由により休学が認められる場合があるが、その際はコーホートと共に続行することはできないが、後のコーホートとともに修了要件を修得することはできる⁴⁰。

4. Ph.D.プログラム

EDST 専攻の Ph.D.プログラムは「Ph.D. in Educational Studies (Ph.D.教育学)」のみであり、教育学専攻内のいずれの専門分野をも対象とし得る研究者志向の博士プログラムである。修了までの期間については、すべてのコースワークを修了するのに2年、調査プロジェクトの立ち上げから実施まで2年から4年かかるのが通例であり、修了までの期間の上限は6年となっている⁴¹。

コースワークとしては、3つの「博士セミナー (Doctoral Seminar)」を修得することが求められる。第一の博士課程セミナー「EDST 601A Doctoral Seminar」は、博士課程での就学に関連する専攻の方針や各種手続きに慣れるよう学生を支援するよう、また教育に応用される社会科学上の批判的理論的伝統や概念的課題を検討するようデザインされている。第二の博士セミナー「EDST 601B Doctoral Seminar」は、実証主義的 (positivist)、解釈論的 (interpretive)、歴史的 (historical)、哲学的 (philosophical) 方法や現在の方法論的課題や議論に関する理解を学生に提示する。第三のセミナー「EDST 602 Doctoral Seminar」では、理解度テスト (comprehensive exams) や研究計画書 (thesis proposals) の準備として、特に研究論文の執筆に焦点を当て、博士課程での経験に従事することが何を意味するのかについて考察することとされる⁴²。Ph.D.に関しては、コースワークの修得要件単位数は特に定められていないが⁴³、学生には現在の理論や研究に関する知識を得るために、自分の専門分野に関する授業をいくらか修得することも期待されており、専門分野のコースワークは初年度に修得しておくことが推奨されている。また、現在の教育理論に関する理解に深さと広さをもたせるために、自分の専門分野を超えるが関連はするその他の授業を修得する学生も多い。すべてのコースワークが修了し、研究計画書審査の前に、すべての Ph.D.の学生は理解度テストに合格しなければならない。他方で、Ph.D.の学生は、幅広く深い現代的教育理論の

³⁸ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年5月17日採取)。

³⁹ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年5月17日採取)。

⁴⁰ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年6月12日採取)。

⁴¹ https://edst.educ.ubc.ca/programs/phd-in-educational-studies/#tab_About-0 (2023年6月12日採取)。

⁴² https://edst.educ.ubc.ca/programs/phd-in-educational-studies/#tab_Requirements-2 (2023年6月19日採取)。

⁴³ https://edst.educ.ubc.ca/programs/phd-in-educational-studies/#tab_About-0 (2023年6月19日採取)。

理解を得るために、自身の専門領域を超えた関連するコースワークを追加的授業として受けることが多い。Ph.D.の学生はまた、現代的教育調査に使用される様々な方法を熟知しており、また自身の調査に関連する特定の方法をマスターすることが期待される。調査方法において熟達することは、利用可能な授業を受け調査方法に関する先行研究を幅広く講読する必要がある。学生には、プロポーザルが承認される前に、自身の研究計画の実行を成功させるために必要な知識とスキルを獲得しているということを示すことが期待される。

理解度テストは学生のプログラム・アドバイザーか調査指導委員会 (research supervisory committee) によって準備される。理解度テストに合格した後、研究計画書の承認を受けなければならないが、通常ここまでを3年目が終了するまでに終わらせなければならない。即ち、入学後3年が終わるまでにすべてのコースワークを修得し、理解度テストに合格し、プロポーザルの承認を受けることによって、Ph.D. 候補者資格 (candidacy) を得ることができる。その後学位論文執筆のための調査を実施し、学位論文を執筆、最終審査に合格すれば修了ということになる⁴⁴。

5. 各学位プログラムの比較検討

以上、UBC バンクーバー・キャンパス教育系大学院学位プログラムとして、特にEDST専攻に注目してその詳細を見てきた。ところで、拙稿 (平田, 2024a) で検討した通り、UBC バンクーバー・キャンパス教育系大学院学位プログラムは、まず専攻別プログラム (Departmental Graduate Programs) と研究科横断プログラム (Faculty-Wide Programs) に分類される。専攻別プログラムは、「カリキュラム&ペダゴジー (Curriculum & Pedagogy: EDCP)」、 「教育心理学・カウンセリング心理学・特別支援教育 (Educational and Counselling Psychology, and Special Education: ECPS)」、 「教育学 (Educational Studies: EDST)」、 「言語&リテラシー教育 (Language & Literacy Education)」の4専攻 (Department) と「運動学スクール (School of Kinesiology)」から構成されている (「運動学スクール」は検討の対象外であることは、拙稿 (平田, 2024a) で述べた通りである)。また、研究科横断プログラムには、「先住民教育学 (Indigenous Education)」、 「幼児教育学 (Early Childhood Education: ECED)」、 「教育テクノロジー (Educational Technology)」の3つの専攻がある。そしてこれら多くの専攻・分野は、M.A.とM.Ed.の両修士プログラム、あるいはいずれかを提供している。他方で、Ph.D.があるのは、EDCP専攻カリキュラム学分野、EDST専攻教育学分野、ECPS専攻カウンセリング心理学分野、人的開発・学習・文化分野、測定・評価・調査方法論分野、学校応用児童心理学分野、特別支援教育分野、LLED専攻リテラシー教育分野、第二言語としての英語教育分野であり、Ed.D.があるのはEDST専攻教育リーダーシップ&政策分野のみである。特に修士プログラムに関しては提供している領域・分野が多いため、これらすべてを上記3つの比較軸に沿って検討したとしても、それぞれの学問特性上の違いが比較を困難にするであろうことが懸念される。つまり、すでに顕在化している事項を比較検討する場合、当該事項以外は同様の性質を有する方が視点が明確になるものと思われる (平田, 2007)。そこで本稿においては、これまで本プロジェクトで対象とした大学に関する検討と同様、筆者の専門分野である「教育行政学」に近く、またM.Ed., M.A., Ed.D., Ph.D.すべての学位プログラムを提供しているEDST専攻に絞って、これら学位プログラム間の異同について考察することとする。

(1) M.Ed.とEd.D.の比較—実践家向け修士号と博士号—

M.Ed.とEd.D.は双方ともに実践家向け学位プログラムであるが、M.Ed.はALE領域、ALGC領域、

⁴⁴ https://edst.educ.ubc.ca/programs/phd-in-educational-studies/#tab_Requirements-2 (2023年5月1日採取)。

EDAL 領域, HIED 領域, SCPE 領域 5 領域 5 分野に, EDAL 領域と EDCP 専攻の協働プログラムである CULE 分野を加えて, 計 5 領域 6 分野から構成されているのに対し, Ed.D.は「教育リーダーシップ & 政策」分野のみのプログラムとなっている。とはいえ, Ed.D.プログラムは上述の通り「K-12 学校制度だけでなく, 中等後教育機関や民間企業, 保健機関, 労働組合, コミュニティ・グループといったフォーマル及びインフォーマルなセッティングにおけるリーダーシップや政策上の責任を有する教育実践家のための上級編」とされており, 領域を問わずリーダーシップに関わる事項を扱う実践家向け博士プログラムと捉えていいだろう。

修了要件に関しては, M.Ed.はコースワーク・ベースであり, 30 単位すべてコースワークで修得するか, あるいは 27 単位をコースワークで修め, 3 単位を「修了ペーパー」に充てるかのオプションはあるが, 学位論文を執筆するオプションはない。Ed.D.はリサーチベース・コースであり, 学位論文とその執筆資格を得るための理解度テストが課される。この点が両者の最大の違いであろう。Ed.D.に関しては, これまで本プロジェクトで扱った大学のうち, オンタリオ州にあるトロント大学オンタリオ教育研究所 (Ontario Institute for Studies in Education of the University of Toronto: OISE/UT) とウェスタン大学 (Western University) では学位論文の執筆は修了要件として課されていなかったが, アルバータ州にあるアルバータ大学とカルガリー大学では課されていた。こうしたプログラム上の違いをもたらした要因としては, CPED (Carnegie Project on the Education Doctorate) フレームワークにおいては学位論文の執筆が要件とはされておらず, その代わりに「実践学位論文 (dissertation in practice)」という従来の学位論文とは別のものが推奨されており, 前二者が CPED のメンバーとなっているのに対し, 後二者はメンバーとなっていないということが考えられるということは, 拙稿 (平田, 2024b) で述べた通りである。UBC も CPED のメンバーとはなっていないため, Ed.D.学位取得に際して従来通り学位論文の執筆を課しているということであろう。コースワークとしては, M.Ed.では各領域において, 各領域特有のテーマが設定された授業を 3 科目 9 単位, 調査方法関連授業を 1 科目 3 単位, 残りの 18 単位は選択科目から, あるいは修了ペーパーオプションを選択する場合はその 3 単位分を引いた 15 単位を選択科目から修得しなければならない。Ed.D.では必修科目 6 科目 18 単位, 選択科目 2 科目 6 単位がコースワークに割かれ, 表 5 に示したように, 内容としては研究内容に関する授業が 3 科目 9 単位, 調査方法に関する授業が 2 科目 6 単位, 博士論文執筆に関する授業が 1 科目 3 単位となっている。調査方法に関する授業数が Ed.D.の方が多いのは, 学位論文を執筆する必要があるということであろう。

入学要件としては, M.Ed.に関しては, 例えば ALE 領域では成人教育に関する 1-2 年の実務経験⁴⁵, EDAL 専攻では 3 年の教職経験とリーダーシップ経験⁴⁶というように具体的な年数を挙げており, HIED 領域⁴⁷と SCPE 領域⁴⁸では年数は挙げていないが, それぞれ「教育分野における経験があることの証拠が求められる」とされ, ALGC 領域を除くその他の領域でも何らかの形での教育関連の実務経験が求められている。Ed.D.に関しては, ウェブサイト⁴⁹上では拙稿 (平田, 2024a) で言及した大学院入学の最低要件に触れているのみである。Ed.D.には通常 M.Ed.を得た上で進学してくることが想定されるが, そのため特に Ed.D.独自の要件として実務経験を課していないとも考えられるが, この点については確認が必要である。

⁴⁵ https://edst.educ.ubc.ca/programs/adult-learning-and-education/#tab_Admissions-1 (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁴⁶ <https://edst.educ.ubc.ca/programs/educational-administration-leadership/> (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁴⁷ https://edst.educ.ubc.ca/programs/higher-education/#tab_Admissions-1 (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁴⁸ https://edst.educ.ubc.ca/programs/society-culture-politics-in-education/#tab_Admissions-1 (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁴⁹ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Admissions-1 (2023 年 6 月 19 日採取)。

(2) M.Ed.と M.A.の比較—実践家向け修士号と研究者向け修士号—

まず M.Ed.は上述の通り 5 領域 6 分野から構成されているのに対し、M.A.は ALE 領域、EDAL 領域、HIED 領域、SCPE 領域の 4 領域から構成されている。つまり、他大学との協働によって開講されている ALGC 領域と、他専攻との協働で設置されている CULE 分野は、M.Ed.のみのオプションとなっている。また、「M.Ed. in Educational Studies」の一部として「サステナビリティ教育 (Education for Sustainability)」に関する学位プログラムが設置されているのも、M.Ed.のみである。つまり、従来の学問領域で分類することが困難であると思われる学際領域に関する事項を扱うプログラムについては、M.Ed.のみで提供されているということである。M.Ed.が実践家向け学位プログラムであり、学問上というよりも実践的対応の必要性を重視した結果であるとすれば、これら領域・分野・事項が M.A.ではなく M.Ed.のみに設置されているのも、ある意味納得がいくかもしれない。

修了要件単位については、これが 30 単位であることは両プログラムに共通しているが、上述の通り M.Ed.では学位論文を執筆することはない一方で、M.A.はリサーチベース・コースであり、学位論文執筆が修了要件とされている。研究者向けプログラムの M.A.と実践家向けプログラムの M.Ed.の最大の相違点は、ここにあると言っていいだろう。また、M.Ed.では領域特有の授業を 9 単位、調査方法関連授業を 3 単位、残りの 18 単位は修了ペーパーオプションを含めて選択科目から、それぞれ修得することになっている。M.A.では学位論文が 6 単位に相当するため、残り 24 単位のうち EDST 571 と EDST 572 という調査方法論関連の授業 2 科目 6 単位が、全領域共通の必修科目とされている。残り 18 単位のうち、各領域 3 科目 9 単位ずつそれぞれの領域のテーマに特化した授業を修得することとされており、3 単位は調査方法に関する上級の授業を修得することとされている。つまり、領域のテーマに関しては必修科目のみであって選択科目はなく、調査方法に関する授業は 3 科目 9 単位分が課されているということである。学位論文執筆のための調査を実施するということから、M.A.の方が M.Ed.よりも調査方法関連授業を重視しており、その分要求される選択科目の数が減らされているということであろう。

入学要件としては、例えば ALE 領域では成人教育に関する 1–2 年の実務経験⁵⁰、EDAL 専攻では 3 年の教職経験とリーダーシップ経験⁵¹というように具体的な年数を挙げており、HIED 領域⁵²と SCPE 領域⁵³では年数は挙げていないが、それぞれ「教育分野における経験があることの証拠が求められる」とされ、ALGC 領域を除くその他の領域でも何らかの形で教育関連の実務経験が求められている。但し、M.A.の 4 領域に関しても、ウェブサイト上は同様の実務経験が求められることになっている⁵⁴。実践家向けプログラムである M.Ed.の入学要件として実務経験が要求されるのはプログラムの性質上理解できるが、研究者向けプログラムである M.A.への入学要件として実務経験が課されるというのは、はっきり言えばその正当性が筆者にはよくわからない。今後の確認事項としたい。

(3) Ed.D.と Ph.D.の比較—実践家向け博士号と研究者向け博士号—

Ed.D.及び Ph.D.ともに、修了要件として学位論文の執筆及びそれに伴う理解度テストやプロポーザルの審査合格が求められている。コースワークについては、Ed.D.プログラムが必修科目 6 科目に選択科目 6 単位であるのに対し、Ph.D.では特に定められてはいないものの、三種類の「博士セミナー」の受講が求められている。双方ともに「博士セミナー」として EDST 601 と EDST 602 を受講する必要があるこ

⁵⁰ https://edst.educ.ubc.ca/programs/adult-learning-and-education/#tab_Admissions-1 (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁵¹ <https://edst.educ.ubc.ca/programs/educational-administration-leadership/> (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁵² https://edst.educ.ubc.ca/programs/higher-education/#tab_Admissions-1 (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁵³ https://edst.educ.ubc.ca/programs/society-culture-politics-in-education/#tab_Admissions-1 (2023 年 6 月 18 日採取)。

⁵⁴ https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab_Applying-4 (2023 年 6 月 18 日採取)。

とは同様だが、Ed.D.ではEDST 601は1科目であり、その内容は「教育やリーダーシップ、倫理、政策、実践、そしてそれらの関係性を含む当該プログラムを通して重要となる課題や問題、概念の観点から受講者の実践を相互に分析すること」⁵⁵とされているのに対し、Ph.D.ではEDST 601はAとBに分割されており、Aは「博士課程での就学に関連する専攻の方針や各種手続きに慣れるよう学生を支援するよう、また教育に応用される社会科学上の批判的理論的伝統や概念的課題を検討するようデザインされている」とされ、Bは「実証主義的(positivist)、解釈論的(interpretive)、歴史的(historical)、哲学的(philosophical)方法や現在の方法論的課題や議論に関する理解を学生に提示する」⁵⁶とされている。学位論文執筆に際しての理論上及び方法論上の理解が、Ph.D.についてはより求められるということであろう。EDST 602が主に理解度テストや学位論文執筆の準備作業から構成される点については、双方ともに同様である。その他のコースワークについては、Ed.D.においては科目名と単位数を定められているのに対し、Ph.D.に関しては、ウェブサイトを見る限りでは特に決められてはいない。Ph.D.がより研究志向であり、そのためコースワークよりも学位論文により重点が置かれているということかもしれないが、この点については確認が必要である。

修了までの期間に関して、まず候補者資格取得については、Ed.D.はコースワークの修得と理解度テスト及びプロポーザルの審査合格を2年目までに終えなければならないとされているが、Ph.D.は3年目終了までとされており、コースワークの縛りが緩いPh.D.の方が逆に1年長く設定されている。修了までの期間としては、Ed.D.は3年で修了できるようにデザインされているが、多くは3年以上かかるとされている。但し、上限については明確な言及はない。Ph.D.は6年とされている。

おわりに

以上、UBCバンクーバー・キャンパス教育系大学院学位プログラムについて、特にEDST専攻を対象として考察してきた。UBCにはバンクーバー・キャンパスの他にオカナガン・キャンパス(Okanagan Campus)もあり、そこには「オカナガン教育スクール」が開設されており、大学院学位プログラムとしてはM.Ed.とM.A.、及びEd.D.が提供されている。オカナガン・キャンパスはバンクーバー・キャンパスに比べると規模が非常に小さく、それはオカナガン教育スクールと教育学部の関係にも当てはまる。他方で、オカナガン・キャンパスがある以上、バンクーバー・キャンパスで提供されているプログラムのみ考察しただけでUBCの教育系大学院学位プログラムについて断定的に何かを言うことは控えなければならぬ。そこで次稿では、オカナガン教育スクールで提供されているM.Ed.、M.A.及びEd.D.プログラムについて検討することとする。

【参考文献】

- ・ 平田淳(2007)『「学校協議会」の教育効果に関する研究―「開かれた学校づくり」のエスノグラフィー』東信堂。
- ・ 平田淳(2024a)「ブリティッシュ・コロンビア大学バンクーバー・キャンパス教育系大学院学位プログラムの諸特徴」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第8巻、63―82頁。
- ・ 平田淳(2024b)「カルガリー大学Ed.D.のプログラム・デザインとM.Ed.・Ed.D.・M.A.・Ph.D.の比

⁵⁵ https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/#tab_Requirements-2 (2023年6月19日採取)。

⁵⁶ https://edst.educ.ubc.ca/programs/phd-in-educational-studies/#tab_Requirements-2 (2023年6月19日採取)。

平田 UBCバンクーバー・キャンパス教育学（EDST）専攻における学位プログラムの比較考察
比較考察』『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第8巻，48－62頁。

【附記】

本稿は，独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（C）（一般））「JSPS 科研費 JP18K02283」の研究成果の一部である。

（2024年1月31日 受理）